

若い力が 岡崎の教育を創る



愛知県教育委員会委員長

岩月 慎自 氏

新しい年度が始まりました。希望に胸躍らせる子どもとともに、岡崎の教育を推進する教職員の皆さんの飽くなき挑戦が始まりました。今年も八十四名の新規採用者を迎え、彼らを中心とした若手教師のさらなる活躍が期待される場所です。

ずいぶん前の話ですが、新任教師の研修を担当したことがありました。市教委に勤務して最初にいただいた仕事の一つでした。それまでの十年ほどを岡崎の学校から離れた職場で過ごしていましたから、前の年までの様子や段取りなどはまったく分かりません。過去の書類をひっくり返したり、先輩や同僚に尋ねたりして、まさに手探りの状態でした。研修の内容とふさわしい講師を選定し、限られた情報を頼りに受講者の班を編成して、やっとの思いで開催に漕ぎ着けることができました。

開講の日のメインは、教育長と校長代表の講話でした。しかし、担当として、講話の後のガイダンスこそが重要と考えていました。以後の研修をいかに受講するか、その心構えを



持たせることに重点を置いたので、自分のための研修であると自覚して主体的に受講すれば、研修は自ずと有意義なものになるだろうし、期待以上の力を身に付けてもくれるだろうと予想しました。そのための手を打つことこそ大切であると考えたのです。

研修全体の内容を説明し、各回の運営、進行を班毎で分担することを伝え、そのためのリーダー（班長）を選出することから始めました。驚きの声も上がりましたが、自ら進んで役を請け負う気概のある者が名乗り出て班長が決まり、各回の分担が決まると、誰の目も輝いているように見えました。若い先生方のエネルギーは想像を超えます。経験をしていないはずなのに、目の前に次々に現

れる課題を、豊かな創造力、たくましい実行力で大方乗り越えてしまいます。解決しないときには、みんなで知恵を出し合います。そして、求められる前に計画案を提示する力さえ身に付けました。期待をかければ、必ずそれに応える動きを見せてくれたのです。

そのときから研鑽を重ね、子どもの教育に情熱を傾け続けてきた当時の新任教師の皆さんは、二十年を経た今、各学校、各分野で、リーダーとして大活躍をされています。まさに、期待されるミドルリーダーです。四月から新たに教壇に立たれた方を含め、将来への大きな可能性を秘めた若い教師の皆さんにも、成長と躍進の夢を叶えていただきたいと切に願います。

(いわつき しんじ)

教育随想



平成27年4月1日

4月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
愛知県教育委員会委員長 岩月 慎自氏	
この人に聞く	2
絵本作家 おおたけ ももこ氏	
羅針盤	2
六名小学校長 内田 幹也	
ふれあい	3
甲山中 近藤 雄介	
特集	4
平成27年度 岡崎の教育	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
高松宮様お成り記念「悠紀祭り」 (昭和4年)	
この本を	8

この人に聞く



「おたけももこ作
「わすれないでね」
挿絵

わたしを強くしたもの

絵本作家
おたけ ももこ 氏

「ぼくを強くしたものは、それは、孤独でも、信念でも、挫折でもなかった。人と人のつながりが、ぼくを強くした」。大竹さんの絵本『ぼく』の一節である。これまでに三冊の絵本が出版されているが、大竹さんの描く絵本の世界は決して甘くはない。死、孤独など自分のうちにあるものと正面から向き合い、何かを絞り出すような作風である。

実は、絵も文章も書くのが苦手で、人前ではしゃべれない子供だった。「家庭科の授業で、小さい子が遊べるような布絵本を作りました。物作りが、ずっと好きでした。」

中学生になり、大好きな洋裁の道に進みたいと考えるようになった。しかし、母の猛反対に遭う。

「洋裁の学校では、高等学校卒業の資格が取れない。専門学校に行くなら自分で稼いで行きなさい」と言

われ、三年働きました。そのお金で、東京の専門学校に行くことにしました。」

厳格な母に育てられた。

「自分の気持ちを伝えたい、分かっ
てほしい。そんな母への思いがいつ
しか反発になり、理解してもらえな
いのなら、いつそ家を飛び出そうと
考えるようになりました。でも、逃
げることはかり考えながらも、どこ
かで自分を知ってほしいと思ってい
ました。」

自己表現できる方法は何かと考
え、選んだ道は、絵本作家になるた
めの勉強だった。

専門学校卒業後は、トレースの仕事
をしながら自分の描いた作品を持ち
込んだり、個展を開いたりもした。
しかし、夢への道のりは遠かった。

「仕事は、三十種類ほどやりました。
その中で、大人にだまされたと言っ
たのでしょいか、苦勞の連続でした。
そして、人が嫌になっ
ていきま
した。どん底の生活の中で、絵本その
ものが意味のないもののように思え
て、見ることもさへ嫌になりました。」
気付けば、東京に出てきて十五年
が過ぎていた。

「人の道を外れない程度にずるく生
きる自分を感じて、これまでの生活
に決別しようと考えました。」

自分に素直に生きようと、三十五歳
で帰郷した。その後、奮起して調理師
免許の取得に励み、料理に関わる仕事
に携わった。そこで良縁に恵まれ、
結婚、出産に至り、人生の好転を感じ
ながら、一つの決断をした。それは、
再び絵本作りに挑戦することだった。
「母は、また絵本と関わるのかと冷

やかでした。でもやらなきゃいけ
ないと思いました。何かに動かされ
るように、自分の中から湧き出るも
のを書きました。創作のヒントは至
るところにありました。ヘルパーの
資格、手話の勉強など、これまでの
様々な知識や経験が役立つと思いま
した。作品の根本にあるのは、自分
の真実です。」

作品を発表する中で、徐々に人と
のつながりが広がるのを感じた。

「本屋さん、読んでくれた人、そし
て自宅で営む喫茶店に来てくれたお
客さん、いろいろな人との出会いが
ありました。私の絵本を読み、この
気持ちは分かるよと母娘で話ができ
るようになりました。絵本のおかげ
で、また人を好きになることができ
ました。」

「夢に向かって進んでいると、協力
してくれる人が現れます。人は、な
りたければ何にでもなれるというこ
とを子供たちに伝えていきたい。」
大竹さんの笑顔は、強く、そして
優しく輝いていた。



氏名 大竹 早苗
住所 おたけ さなえ
岡崎市片寄町

潜在的な教育効果

六名小学校長

内田 幹也



「挨拶の声もいいが、頭を下げてく
れる子が多いですね。きっと先生方
がそうされているからでしょうね。」
来校された方からこう言っていた
だいたことがある。「挨拶をするこ
きには頭も下げましょう」というよ
うな指導は一切したことがないのだ
が。その後、意識して見ていると、
確かに頭を下げて子供たちと挨拶を
交わしている先生が多いことに気が
付いた。

一年間担任すると、子供たちの口調
や文字がその担任に似てくるとい
う話は昔からよく聞く。担任の影響力
の大きさは経験的には分かっている
が、そういったことがカリキュラム
と呼ばれていることを最近になって
知った。

カリキュラムのなかには、学習指導
要領のような国レベルのもの、教育



三味線の魅力に触れて

甲山中 近藤 雄介

リコーダー演奏を得意とする一年生A男が、音楽の授業で、日本の伝統楽器である三味線に初めて触れたとき、「慣れるまでが大変そうです」と、授業記録にその感想を書いた。

三味線は、調弦が難しく、糸巻を少し動かすだけで音が変わってしまうため、これまで扱ってきた楽器とは勝手が違う。そこで、三味線との出合いにあまり興味を示さなかったA男に、音楽ファイルを読み返し、既習した民謡や歌舞伎、雅楽の鑑賞記録を振り返るよう声をかけた。

日頃味わえない刺激や感動を直接体験することによって、音楽の感性は磨かれていく。三味線を通してその能力を高めていってほしいと願ったが、A男は、想像を超える音出しの難しさに直面することになった。「棹をうまく押さえられない」「音程を決めることが難しい」など、これ

まで慣れ親しんできた楽器とは異なる特性に触れ、演奏まではなかなかたどりつけない。それどころか、「一つの音を出すことが、こんなに大変なことだったんだ」と、弱気な感想をノートに記すようになった。

思うような音が出せず苦慮していたA男を前にして、撥を胴に叩きつけることを意識した演奏を示範した。すると、「自分とは力強さが違う」と、目からうろこが落ちたようにつぶやくとともに、打楽器を扱うような意識が必要なことに気付いていった。その後、「棹を押さえる位置だけを確認してみよう」と、段階を追った練習方法を助言していくと、力の入れ具合や押さえ方を試しながら、自分の奏でる音に集中して耳を傾けるA男の姿があった。まだまだ三味線の奥深い音色が出せるころまではいつていないものの、時折、小気味よい音が聴かれるようになり、感性・技巧の高まりを感じるようになった。演奏するA男の表情も次第に明るくなっていった。

グループ練習の場面では、不安を抱えながら練習をしている仲間を気遣い、「叩いた撥をすくうときにこの角度がいいよ」「次の指の位置やはじく弦を考えながら演奏するといいね」など、学びから得た演奏のこつを、仲間にアドバイスできるまで能力を高めていった。音出しの課題を解決

し、三味線の難しい特性と真剣に向き合ってきたA男の成長の証である。三味線演奏をさらに深化させるため、創作活動へと発展させた。「楽譜の空白二小節間を三味線で奏でる」「指定された音階以外の音は使用しない」など、新たな課題提示を行った。「旋律を考えることは難しいけれど、限られた音を利用することでいい音は出せる」と、音符を並べながら、仲間に提案するA男の姿があった。グループ発表を終えたA男は、「人前での演奏はとても緊張したけれど、みんなに聴いてもらえてうれしかった」と爽やかな笑顔で感想を述べた。

弦楽器と打楽器の特性を併せ持つ三味線の魅力に触れ、生き生きと創作活動に取り組んだA男の成長を心からうれしく感じた一瞬であった。



計画や指導計画といった学校単位のもの、授業の場面でのものの三段階があり、それぞれに表と裏があるところである。授業の場面で考えてみると、子供たちはある内容を教えられていても、その内容と同時にいろいろなことを学び取っている。前述の口調や文字はその典型であろう。教師の無意識的、無自覚的な言動により、児童生徒へ伝わっていく知識、価値観、行動様式などの潜在的な教育効果を「ヒドウン（隠れた・裏の）カリキュラム」という。

ヒドウンカリキュラムにはプラスもマイナスもある。いつも笑顔の教師からは、安心感や明るさが伝わり、いつも疲労感を漂わせている教師からは、倦怠感や暗さが伝わってしまう。それが一年間ずっと伝わり続けていくとしたら、この違いは大きいだろう。教師も人間である。いつもにこにこしていられるものではない。しかし、自分の表情が子供たちに影響するとしたら、無理やりにも笑顔をつくる必要がある。

教師は常に自分の言動を見つめ直すことが重要だ。管理職は学校全体の雰囲気を感じ取らなければならぬ。学校が常にプラスのヒドウンカリキュラムで満ち溢れるように。

平成27年度 岡崎の教育



▲ 健やかな体（岩津小）

はじめに

教育とは、崇高ですばらしいものである。

天然資源に恵まれない我が国が、確固たる世界的地位を確立するためには、教育が最も重要である。そして、教育によって子供たちに優れた能力や豊かな人間性を育成することが、世界の平和や発展の基礎となる。私たちは、子供たちの幸福のために、魅力ある人間性をもち、一人一人の子供の心を大切にしたい教育を目指していきたい。

岡崎の教師が大切にしてきたこと

昭和三十年代から四十年代の市内小中学校の研究主題には次のようなものがある。

- 「児童中心を目指す学習指導」
（昭和三十年代梅園小学校）
- 「基礎学力の充実と自発学習の促進」
（昭和三十年代東海中学校）

- 「道徳性の内面化と主体化を図る」
（昭和三十四年度岡崎小学校）
- 「創造する力を伸ばす理科教育」
（昭和三十六年度ハッ美北部小学校）
- 「体力づくりをめざす健康教育の実践」

- 「昭和四十年年度竜海中学校」

- 「考える子どもを育てる学習指導」
（昭和四十五年度矢作東小学校）

- 「主体性を高める学習指導」

（昭和四十四年度常磐中学校）
これらから岡崎の教師が大切にしてきたことが次のように整理できる。

- ① 子供を中心に据えた教育活動を心掛けてきたこと
 - ② 学習指導の充実と学力向上を重視してきたこと
 - ③ 道徳性の涵養^{かんよう}を大切にしてきたこと
 - ④ たくましく健やかな子供の育成を目指してきたこと
 - ⑤ 子供の主体性を高め、創造力を育成することを目標にしてきたこと
 - ⑥ 全国的に見ても、先進的で、半世紀近くたっても色褪せない教育活動を展開してきたこと
- こうした岡崎の教師が大切にしてきた精神・教育哲学を私たちは継承し、発展させていきたい。

教育の今日的課題

今日、学校教育に期待されていることは、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を子供たちに育てていくこ



▲ 書写の基礎を築く (矢作東小)



▲ 伝統の音楽を学ぶ (北野小)

とである。この要請に応えるための課題として次のようなものがある。

- 豊かな感性や優しさ、思いやりなどの豊かな人間性を育成すること
- 主体的に取り組もうとする意欲や多様性を尊重する態度を育成すること
- 外国語で躊躇せず意見を述べ、他者と交流していくために必要な力を育成すること
- 言語活動、探究的な学習活動、体験的な活動、ICTを活用した指導を大切にすること
- 障がいのある子供に対する特別支援教育を着実に進めていくこと

岡崎の教師が大切にしてきたことと、教育の今日的課題を踏まえて、岡崎の教育の視点と指導の重点を次のように設定する。

岡崎の教育の視点

各園・学校においては、基礎的、基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、公共の精神を尊び、子供の個性を伸ばす教育を展開する。そのために、園・学校や地域の実態に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる、安全で魅力ある園・学校

づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全園・全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と学校とが協働し、信頼される教育の創造に努めていく。

特に次の三点を指導の重点とする

- ◎学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進
- ◎命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進
- ◎体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

岡崎の教育の挑戦

(一) ESDの一層の推進

今年度は、次に掲げる点について新たな挑戦をしたり、これまでの取組の改善を図ったりしていく。

①英語教育の充実

中学校で年間二十時間のオールイングリッシュのグローバルコミュニケーションタイム(GCT)を導入する。小学校の英語活動・英語学習と合わせて、小中学校の効果的な連

携を図り、九年間をとおして英語が話せるおかげさっ子の育成を図る。

②環境教育の充実

『岡崎市環境学習プログラム』を着実に実施し、各種の問題に対して問いをもち、主体的に考え、判断し、行動できる力を育てていく。

③岡崎の心の醸成

岡崎に関わる人・もの・ことを教材や題材として取り上げて、岡崎の心の醸成を図る。これによって、豊かな感性や優しさ、思いやりなどを育成するとともに、多様性を尊重する態度の基礎を育成する。

(二)タブレットを活用した授業改革

中学校に配備したタブレットPCを活用し、個性や能力に応じた学び、生徒同士の協働的な学びを実現するよう授業改革を進める。

(三)次期学習指導要領改訂を視野に入れた授業研究推進

各教科固有の知識の習得・定着を目的とした学びと、その活用・発展を目的とした学びを、アクティブラーニングの視点で見直し、よりよい授業のあり方を研究する。



●教育関係機関だより

◆岡崎市総合学習センター

- 一階受付 ☎五四一一二二五
- 教育研究所 ☎八三二七七七〇

岡崎市総合学習センターは、平成二十三年八月にオープンし、大・小ホール、教育研究室等を完備した教育施設として多くの人に利用されている。特に、教育研究所内の教育図書室は、学習指導案の閲覧、図書資料の貸し出し、学芸会等行事のDVD視聴などができ、現場の先生方に役立つ情報が充実している。

○ハートピア上地（新設）

本年度は、適応指導教室の利用希望者増加に対応するため、一階フロアを改修し、



「ハートピア上地」を開設する。社会教育・教職員研修・適応指導教室の機能を併せ持つ教育施設として新たなスタートを切る。



◆教育相談センター

☎七一一三二〇一

いじめや不登校、就学等の教育相談機関「そよかぜ相談室」と不登校児童生徒適応指導教室「ハートピア岡崎」を合わせて開所し、五年目となった。

九月からは、岡崎市総合学習センター内にて、第二のハートピアが開所される予定となっている。それに合わせ、現在のハートピア岡崎を「ハートピア竜美」とし、総合学習センターの「ハートピア上地」と合わせて「ハートピア岡崎」とする。

○そよかぜ相談室

主な相談内容は、いじめや不登校、就学、特別支援教育である。相談をしたい方が電話で予約して来所し、臨床心理士や相談員と相談を行う。また、発達障がい専門家が巡回相談を実施している。

○ハートピア岡崎

学校への復帰を目指し、子供がハートピアへ通所し、指導員やハートピア専属の臨床心理士による支援を受ける。また、通所できない子供には、学校からの要請に応じて、登校支援員が家庭訪問をするなどして、登校の支援、相談等を行っている。

◆少年自然の家

☎四七一一三五七

少年自然の家は、昭和五十

二年、須淵の森に開所。以来、心身ともに健全な少年を育成するための野外教育施設として、飯盒炊さんやテントでの宿泊を楽しむ子供たちの素敵な姿が見られた。

昨年、八千人近くの市内の小中学生が「山の学習」を行った。また、ネイチャークラブやワイルドキャンプなどいくつかの主催行事も行い、教員の野外活動指導者研修にも利用された。

四月から改修の進む施設（宿泊棟に障がい者対応トイレを設置、山小屋バイキングのベランダも全面補修）によって、思い出に残る充実した自然体験活動を行っていく。

●表彰

◆第15回東海ブロック中学生バレーボール新人大会

- 男子 優勝 北中
- 二位 竜南中

◆第9回東海中学校選抜卓球大会

- 女子 敢闘賞 北中

◆第17回日本ジュニア管打楽器コンクール全国大会

- ソロ部門 出場 北中
- アルトサクソフォーン 大野来万智

○アンサンブル部門

- 銅賞 北中
- クラリネット四重奏 銅賞 北中
- 金管八重奏

出場 北中

◆第27回中部日本個人・重奏コンテスト本大会（東海北陸大会）

- 金賞 北中



アルトサクソフーン独奏

大野来万智

金賞 美川中

チューバ独奏

荻野 真幸

銀賞 北中

クラリネット四重奏

銅賞

サクソフーン四重奏

山田 莉子・成瀬あおい

八木沢李生・中山 友希

◆平成26年度中部日本個人・重奏コンテスト愛知県大会

○独奏部門(東海北陸大会出場)

金賞 北中 大野来万智

金賞 美川中 荻野 真幸

○重奏部門(東海北陸大会出場)

金賞 美川中

金賞 北中

◆第12回アンサンブルコンクール

銀賞 北中

◆第60回青少年読書感想文全国コンクール

入選 甲山中 水野菜々子

美合小 北野 正陽

矢作東小 内田 萌伽

◆第17回キューブ活用コンテスト

スト

羽根小

片岡 沙織

グランプリ 生平小 二年生

◆第12回吉井勇顕彰短歌大会

特別賞 常磐東小 青山 竜大

◆2014地球にやさしい作文・活動報告コンテスト

奨励賞 常磐東小 畔柳 凜大

◆「家庭の日」県民運動啓発ポスター

努力賞 東海中 植松 万琴

◆国際平和ポスターコンクール

最優秀賞 矢作東小 河合 寧恵

●期待の新任教員

平成二十七年年度岡崎市小学校新規採用教員は八十四名(養護教諭を含む)である。

なお、新任教員の配置は次のとおりである。

◆新規採用教諭

梅園小 岩田 光憲

根石小 兵藤 裕美

男川小 清水 悠平

森下 藍

美合小 多田 結香

緑丘小 荻野 彰子

原田祐美子

矢作西小

永井美優妃

岡崎小

三島小

竜美丘小

連尺小

広幡小

井田小

福岡小

藤川小

山中小

生平小

常磐南小

細川小

岩津小

大樹寺小

倉橋 美咲

吉田 悠

市川 和樹

本田 彩華

長友 一起

廣瀬 真由

鈴木 麻予

矢作中

岩月 康輝

山本 頼子

矢作北中

山本 頼子

青山将太郎

櫻井 淳美

岩月 聖将

河瀬 恵梨

岩瀬 篤史

永谷 梨穂

羽根渕佑美

稲垣 拡大

児玉美智恵

加藤 駿

三浦 優子

小川 貴子

亀井 綾乃

倉田 頌子

永井 理美

川畑 汐里

鶴田 牧子

星野 雄大

光田 拓矢

中島 翼

三ツ口 葵

柴田 智巳

杉本しおり

鈴木 彩水

倉橋 美咲

吉田 悠

市川 和樹

本田 彩華

長友 一起

廣瀬 真由

鈴木 麻予

矢作中

矢作南小

六ツ美中部小

六ツ美北部小

六ツ美南部小

上地小

小豆坂小

北野小

六ツ美西部小

田代 耕平

平岩ひかり

今岡 大地

山田 祐香

齋藤和夏子

辻本 慎吾

諏佐 駿介

角田 恵理

平川 莉奈

次井 祥太

小田 薫子

鈴木 彩日

天野 泰国

天野 圭祐

前原 章由

太田 賢人

近藤 広貴

岩月 康輝

山本 頼子

矢作北中

山本 頼子

青山将太郎

岩月 聖将

河瀬 恵梨

大久保信樹

中島 絢子

山辺 舞

鈴木 俊宏

松下 萌香

田代 耕平

平岩ひかり

今岡 大地

山田 祐香

齋藤和夏子

辻本 慎吾

諏佐 駿介

角田 恵理

平川 莉奈

次井 祥太

小田 薫子

鈴木 彩日

天野 泰国

天野 圭祐

前原 章由

太田 賢人

近藤 広貴

岩月 聖将

山本 頼子

矢作北中

山本 頼子

青山将太郎

小林 広奈

白井健太郎

天野 愛佳

金子奈津伎

伊藤 雄貴

山本 紗布

土屋 翔平

手嶋 英莉

岩瀬 安史

深津 佑馬

山田利香子

尾関 俊哉

松山 衣里

大曲 佳紀

北河 菜歩

滝本 昌代

玉村紗也加

永田 侑

梅村 佳以

滝本 昌代

玉村紗也加

永田 侑

梅村 佳以

滝本 昌代

玉村紗也加

永田 侑

梅村 佳以

滝本 昌代

玉村紗也加

永田 侑

●期待の新任事務職員

平成二十七年年度の新任事務職員は三名で、配置は次のとおりである。

竜美丘小 太田紗友美

井田小 日高 悠輔

甲山中 安井 元規

・題 字
 ・タイトルバック 教育長 高橋 淳
 ・カ ッ ト 連尺小 坪井 恵里子

高松宮様お成り記念「悠紀祭り」 (昭和4年)

写真提供：六ッ美中部小学校

昭和四年、六ッ美中部小学校に高松宮様が来校されたときの悠紀の踊りと田植えの様子が披露している写真である。その際、「高松宮殿下献上精米」や「菜種油とその苗」も台座品として展示したと記録にある。

六ッ美地区は、大正四年の大正天皇即位後に行われる「大嘗祭」に供える稲の栽培地に選ばれた。そして、この地の米が献上された。現在は、岡崎市の無形民俗文化財に指定され、御田植え踊りと古式ゆかしい田植えの様子をお祭りという形で保存・継承している。

今年はずいぶんその百周年にあたり、その記念行事が六月七日に行われる。記念式典のほか、保存会と小学生による御田植え踊り、中学校によるブラスバンドや高校生による和太鼓などの演奏が披露され、盛大に催される予定である。



「ともだちたくさんつくりたいな」「担任の先生はどんな人かな」たくさんの期待と不安をもって子供たちが登校してくる四月。特に新入生は特別な思いをもっているだろう。だからこそ、我々教師はとびきりの笑顔と愛情をもって子供たちを迎え入れたいと思う。

さあ、また新しい出会いが待っている。

と ホ ツ

卯 目



本との出会い、人、風景、様々な事物との出会いが、人生を豊かにする。時に、その出会いは、苦しいと試練を運んでくることもあるだろう。しかし、すべての出会いに無駄がないと思わせるのは、今、その人の笑顔が本当に素敵だからだ。「悔いがないように生きたい」大竹さんの自己探求の旅は続く。

ツバメが軒先に巣作りを始めると、いよいよ新年度のスタートだと身が引き締まる。色とりどりに咲くチューリップやパンジーの花、優しく膨らんだ桜のつぼみ、新しく芽生えた命たちが一斉に入学・進級をお祝いしているようだ。

心が躍る四月、今年はどうな子供たちと一年を過ごすことができるのかと楽しみみでならない。



* 脳科学は人格を変えられるか エレーヌ・フォックス 文藝春秋 ￥1,600

心に残った一文

楽観と悲観は、どちらも「人がどんな遺伝子をもっているか」「どんな出来事を経験するか」「世界をどのように見、解釈するか」の複雑なからみあいから生じるのだ。

性格は生まれつきのものと思いがちだが、サニーブレイン（楽観脳）とレイニーブレイン（悲観脳）の回路は、脳の中でもいちばん柔軟性があり、環境などで変化していくという。ポジティブな生き方をめざすなら、目の前の出来事に積極的に関わり、コントロールできると思い込むことが大事なのだ。「自分には関係ない」と思った瞬間、それは自分の力で変えられなくなってしまふ。「自分だったらどうするか」という視点を常に持って対処していかなければならないと、改めて考えさせられた。

- * 松姫はゆく 仁志耕一郎 ￥1,600
角川春樹事務所
 - * 大人のための読書の全技術 齋藤 孝 ￥1,500
中経出版
 - * 人生の悩みはお風呂で消える 小山 竜央 ￥1,300
角川学芸出版
- 矢作西小 後藤 充人